
メタルハート

フェニックス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メタルハート

【Nコード】

N4167Z

【作者名】

フェニックス

【あらすじ】

それは人間の精神の世界と学園を行き交う少年たち、カオス予備軍の物語だった。人間の精神を浄化するカオス。人間の精神を巢食うソーサラー。南条 列。通称、烈火のシャクヤ。パトリック・レドガー。通称、鋼のトウゴウ。祐希 みずほ。通称、水虎のキヨウカ。彼等の行く先にカオス軍があるのかソーサラー軍があるのか誰も知らない。

メタルハート

南条 列、パトリック・レドガーは学園の駐車場へ走った。停めてある白銀のバイク。それが彼等を人間の精神に誘うマシンだった。エンジンをかける列。

「エドワードは？」「後から合流するって。行こうぜ」ヘルメットを被ると今日の依頼が掲示される。

「烈火のシャクヤ様ですね。今回の依頼は昨日の被害者の保護です。お間違いありませんね」「アア。任せときなよ。やってやるぜ！」「こちらもだ。ソウルゲート。オープン」

ドルドルドルッ……………キシューン

前方に赤い魔方陣が表れ、彼等はワープする。

「頼んだぞ。イーグル。彼等の監視を。何かあったら連絡しろ」ピ
イーキー

「さて。マシンの調整はこんなもんな。後は実戦か。ハー……………
…この瞬間いつも胃が痛くなる。みっともないよ。胃薬が無いと出
れないなんて。……………エドワード・スカイ。忍者 カゲツ。行きま
す」漆黒のバイクに股がり、エドワードが出発する。

「遅いぞ。エドワード」「アノ……………僕はこっちでは忍者 カゲ
ツって名前なんですけど……………」「オオ。そうだったか？まあ気楽に
やろうぜ。カゲツ。俺は烈火のシャクヤ。で、パトリックが……………
」「……………鋼のトウゴウ。分析とサーチ担当だ。カゲツ。この学園に
来て初めての実戦訓練だな。無理はするな」「わかってますよ。チ
ームプレーですもんね。皆で無事に帰る。そうでしょ？」

「現場に着いたな。トウゴウ。俺達の他に誰がいるか？」「イイヤ。
荒れているが反応がない。まあ昨日の後始末だ。とりあえず、巡回
するか。シャクヤは左から迂回してくれ。俺とカゲツは右から廻る
」「オツケー。退屈な任務だな。マンガでも持ってきてくりゃ良かった
な」「シャクヤ。任務中だ。巡回が終わったら結界を張るぞ」「
教科書どおりですね。わかりました」

三人は巡回した。

「ン？なんだろう。この欠片。後で解析しよう。たぶん昨日のソーサラーの欠片だろうけど」「トウゴウさん。昨日のソーサラーってどんな感じだったんですか？」「下級クラスだ。まあ、訓練生に任せる仕事だからそんなもんさ。いざとなれば介入出来るようになる」「そうですね。町を滅ぼした奴等なんていないですよ」「まあ、そっちは後で調べとくよ。一人でやるより効率が良いだろう。シヤクヤにも伝えとく。今は任務優先だ。そのうち見つかるだよ。例のソーサラー軍も」「ウン。一歩づつですよ。閉ざされた扉も叩き続けているうちは負けていない。そうでしょ？」「そうだな。スパイダーやシルバーオックスも同じ感覚なんだろうな」「ザーザー…………… 浸入信号確認！ポイント西に30。北に5。速度加速中……………」
「来たか。行くぞ！カゲツ」「西に……………北に……………」
「カゲツ？どうした？」「コツ……………怖いんです。僕は」「大丈夫だ。お前は一人じゃない。俺達がバックアップする。ついてこい」「カゲツは震えていた。

パルスのバランスが崩れている。まだ早かったか。こいつを連れてくるには。早くシヤクヤと合流したいがカゲツは置いて行けない。サア、パトリック。どっちを取る。……………シヤクヤすまん。少し遅くなる。任務も大切だが、こいつを守らなきゃ。いずれ、はみ出し者になる。カオス軍から追放された奴がソーサラー軍になった例もあるし。……………少しだ。少し遅くなる。

苦肉の作だった。

「トウゴウ！敵が見えた！スコープで確認した！距離5000。今、映像を送る」「すまん。シャクヤ。カゲツのパルスが乱れている」「カゲツ！戦えない奴は立ち去れ！俺達を危険にさらすな！」「やめろ！シャクヤ！俺達はチームなんだ！」「チツ……………みずほは？水虎のキョウカは？」「まだ連絡が無い。携帯も電源を切っているらしい」

「ピイーキイー。ピイーキイー……………キケン、キケン。センセイ、キケン」

「なんだと！ロストパルスだと？学園長。コレは？」「すぐに援軍を！先生。貴方も行けるか？」「カゲツを保護に行きます！イーグル。位置を送れ」

「なんで………なんで僕を狙って来るんだよ。いつも、いつも」
「落ちて着け！カゲツ。飲み込まれるぞ！この世界に」「トウゴウ！
まだか？距離3000。総数不明！ソーサラ軍。来るぞ！」「…
…シヤクヤ。手を貸そう」「………お前は………シルバーク
ックス。俺の双子の兄貴。南条 ハヤト………」「聞いたのか
？その話を。なら話しは早い。俺と共闘しろ。シヤクヤ」「………
…待ってよ。兄貴。なんで………」「話してる暇は無いぞ。若造。
俺と共闘しなくては間に合わない。そうだろ？」「………トウゴ
ウ。今………兄貴と一緒になんだ。シルバークックスと。これより
共闘作戦に変更する。間に合わないんだ。しょうがないんだ。行く
よ！俺は！」「すまん。シヤクヤ。後で合流する」「行くぜ！シル
バークックス！烈火、二刀流剣！」「銀狼、連装」シヤクヤは二刀
流を構え、シルバークックスはガトリングを構えた。「マシンガン
か。遠距離は任せたよ。行くぞ！ソーサラー！」「シヤクヤ。生き
て帰れ。良いな？」「ワカッテラー！ウォーツ！」「二刀流が赤く輝
く。「烈火、爆炎！」シヤクヤは空を飛び、バツサ、バツサと切り
刻む。まるで踊り子の様に、リズムカルに敵をなぎ倒す。「目標を
捕らえた。レディー！ファイアー！」「ズガガガガッ。シヤクヤの
合間を縫う様にマシンガンが火を放つ。「シヤクヤ！この手投弾を
切れ！」シルバークックスは1ダース程の手投弾を投げる。弾を足
場に切り刻むシヤクヤ。ズダダダダーン。

辺りを爆風が包む。爆風の中から更なる増援が現れる。

「始まったか。急がなくては。シヤクヤ。無事でいてくれ」「トウ

ゴウ。待たせたな。カゲツを預かるう。サア、行け！」「……………貴方は？」「アカデミック・カイザー。お前の先生だ。話しは後だ。フルスピードで向かえ。援軍の手配に時間が掛かる。早く行け！」「アカデミック・カイザー。学園皇帝。ありがとうございます。先生」トウゴウは軽く挨拶を済ませ、シャクヤの元に走った。

頼んだぞ。お前たち。帰ったら、豚まんとゴマ団子を山盛りご馳走しよう。すまん。カゲツを送ったらすぐに向かう。待っている。

続く

メタルハート その2

烈火のシャクヤとシルバールオックスはソーサラーの大軍と戦っていた。鋼のトウゴウは援護に向かっていた。

「頼む。医務室へ。私も直ぐに出る。俺のマシンのエネルギー補給と他のマシンの補給パーツを急いでくれ」「おっはよーございますーす。先生」「オオ、みずほ君。ちょうどいい。私と一緒に精神の世界に飛んでくれ。早く支度を」「何かあったんですか？」「ソーサラーの大軍だ。今、シャクヤとトウゴウ。それにシルバールオックスが相手をしている。時間が無いんだ」「エ？ひよっとして今、医務室に運ばれた……………」「精神錯乱だ。ロストパルスだ。急げ！」「わかりました。場所を転送して下さい。私のマシンに」「アア。もう調整してあるよ。おそらく行くだろうと思ってな」「……………すいません。そんな緊急事態にいれなくて」「それよりお母さんとは和解したのか？」「顔見てわかりませんか？」「そうだな。問題無さそうだ。アア……………みずほ君。いつでも相談してくれよ。なんせ先生なんだから」「ご心配ありがとうございます。祐希 みずほ。水虎のキョウカ。出ます」「アカデミック・カイザー。出向する。ソウルゲート。オープン」「随分な荷物ですね。先生」「アア。補給用のパーツを持って行くからな。みずほ君。フルスピードだ」「ハイ。わかりました」

「兄さん！後ろ！」「キツ……………どこから湧いて出てくるんだコイツら。シャクヤ！後退しろ。守るんだ。被害者の精神を」「わか

ったよ。援軍はまだか？トウゴウ。エネルギーも尽きるぞ」「セー
ブしろ。派手なパフォーマンズは要らない。身近な敵をなぎ倒すん
だ」「チツ……………補給剤を持って来るんだったな。簡単な任務だっ
たはずなのに」「シヤクヤ。よく聞け。人の精神を守るのに簡単も
クソも無い。こちらら、命がけなんだ！向こうさんもな」カツカツ
カツ。「チツ……………弾切れか。しょうがないナイフでやるか」「
兄さん！僕の刀を使いな。二刀流だから俺は。こんな奴等、一本で
平気さ」「ありがたい」「さっき手投弾をくれたじゃないか？貸し
を返したただだよ」

ドルドルドルツ……………キキーイ

「待たせたな！シヤクヤ！無事か？」「トウゴウ！来てくれたか」
「アア。補給物資の差し入れ付きだ。受け取れ！シヤクヤ」「パリ
ツ……………ハイよ。兄さん。半分こだ。少しは持つだろう」「良い
のか？……………ありがとう」「今は死ねない。色々と話したいしね。
母さんも元気だよ」「知っている。俺達は双子の兄弟。お前が表な
ら俺は裏なのだ。つまりお前の影が俺だ。性格も姿かたちも違うが
な」「お二人さん。話しは後だ。今はコイツらを叩きのめす。違う
か？」「トウゴウ。まだ余裕のあるお前が結界を張ってくれ。詠唱
時間は俺達が稼ぐ」「わかった。頼んだぞ。……………天地創造の神々
よ。この者の精神を守りたまえ……………」

ギヒヒイー、ギヒヒイー、ズバツ！ザクツ！

二人はトウゴウを援護した。「来た！キター！行くぞ！法。我が法に従え！輪。彼の御霊を救いたまえ！演。美しく舞え。義。義の名の元に。法輪演義！」

カーン

被害者の精神にカオスの結界が張られる。

「ヤッター！」「いや、まだだ。これだけの大軍となれば破られるのも時間の問題だ。今のうちに、ソーサラーが出てきたポイントを封印しなくては。」

ドルドルドルドルツキキーイ！

「皆、生きてる？」「遅くなった。すまん。補給物資だ。……………かなりの大軍だな。本格的に始まったか。ソーサラー軍め。トウゴウ。私も結界を張ろう。誰か彼等の出てきたポイントに行けるか？」「……………私が行こう。先生。可愛い生徒を危険な場所へは向かわせ

られないだろう？違うか？」「シルバーオックス。頼めるか」「烈火のシャクヤ。いや、南条 列。短い間だったが会えて嬉しかった。またいつか会おう。この刀は返すぞ」「……………持っていてくれ。兄さん。またいつか会えるんだろ？」「契りか。情けないな。俺は列。お前には何もしてやれなかった。一緒に買い物も、昼寝も、勉強も。競いあう事すらしてやれなかった。だが忘れるな。俺はお前の影。お前に危機がある時、また会えるさ。さらばだ」「……………さようなら。南条 隼人。もう一人の自分」

シルバーオックスはバイクで去って行った。

「先生！俺も結界を張る。兄さんが繋いでくれた絆だ」「良いの？シャクヤ。後を追わないで」「後で追えば良いだけさ。兄さんだつて望んで無いだろう」

ソーサラー軍は結界を破ろうと、体当たりしてくる。

四人はソーサラー軍の衝撃に耐える。

「ここにポツカリ穴が。ここか。よし！抑えた。後は連中が納まるだけだ」

シルバーオックスがソーサラーの穴を封印する。援軍が来れなくなったソーサラー軍は徐々にその勢力が消えてゆく。

「フー……………終わったか。なら俺もずらかるか」「兄さん！……………ありがとう。僕一人では到底、無理だった」「先生。あの大軍は？」「おそらくスパイダーが本腰を上げたのだろう。詳しくは知らんが」「……………狙いはこの被害者の精神では無くシヤクヤ。違いますか？」「……………かもしれないな。サア、帰るぞ。皆」「列……………やっと気づいたんだ。私が好きなのはダーリンじゃなくて幼馴染みのアンタなんだって」「だから、興味ないって。恋愛なんて」「チュツ……………お疲れさま。列。帰ろうよ。ネツ！」「ウググツ……………キスなんて……………しょうがねえーなー。ホイ……………腕……………」「ウン？」「……………何してるんだー？先行くぞー！二人ともー」「チョツ……………待てよー。パトリックー！先生ー！」

こうしてまた一人、人間の心が彼等に救われた。人間の知らないカオス予備軍の活躍で。

一方、それを良しとしない、南条 列の父親、スパイダーもいたが。

続
く

メタルハート その3

四人が学園に戻る。学園長はホット肩を落とす。

「ウオツホン。まーそのー……………なんだ。無事で良かった。明日にでも表彰しよう。特に南条 列君か？そのー戦いにはヒジョーニ感動した。それにパトリック・レドガー君。君は上級魔法で結界を張った。だから……………なんだ……………そのー」「園長！アンタの話はいい。エドワードは？エドワード・スカイ！医務室か？」「オオ。そうであつたな」列、パトリック、みずほ、は医務室へ走つた。

ガターン！

「アラ。何かご用ですか？」「エドワードの容態が知りたい」「エドワード？アア、運ばれた方ですの。紅茶でもいかがですか？」「赤髪の小さな女の子が答える。「アラ。お嬢ちゃん。院長先生は？」「スノちゃん。お客様？」「アラ、院長ですの。こちらの方々が……………」「初めてかしら？私はレファ。この医務室の院長よ。で、そのちっこいのがスノちゃん。助手よ。口癖がスノだからね。エツトー……………エドワード・スカイね。しばらく安静と通院が必要ね。どうぞ掛けて」レファは椅子に誘導する。

「ロストパルスの原因はね、ソーサラーの毒性ね。たまに過剰飯能する時があるのよ。今はそれを解毒してるわ。容態は学園に報告するわ。構わないわね」「ソーサラーの毒性?.....先生。俺は一緒にいたんだが検査が必要か?」「関係ないわ。ピンポイントで狙われてるし感染の可能性は無いわね。心配なら処方箋を出しとくわよ。パトリック」「キュピーン!お注射ですの」「スノちゃん。そんな大きいのはいらなのよねー。マアせつかくだから見てく?彼を」
鏡越しに三人はエドワードを看病する。

ソーサラーの毒性をピンポイントで?おかしい。一体、連中の狙いは何だったんだ。あの被害者の心が、烈火のシャクヤカ、エドワード・スカイか?調べる必要があるそうだな。

「君達。今日はありがとう。園長の計らいでもう良いぞ。後はこっちで処理する。近いうち話があるそうだ」「先生。後はお願いします。連中についても」「わかってる。御苦労であったな」

「サツサツ。早く帰りますかね。列君。今日はみずほちゃん特製のスペシャルディナーがあるんだから。ターンとお食べ」「.....パトリック。大丈夫だって。気にすんなよ。無事に帰れた事だし」「.....そうだな」「ンジャ、俺、忙しいみたいだから、明日な」

一匹のカラスが現場をあとにした。深く暗いライブハウスでは、ヘヴィメタルが溢れていた。メガデスのトラストだった。カラスはライブハウスの上空を旋回する。

「クロー。クロー。ホウコク、シマス、スパイダー、サマ。ニンムハ、シツパイ、シマシタ」「ギリリリリッ。またしても若造が！調子に乗りおつて！我が下部、デット・アントラーを！……………下級兵では、歯が立たんか！かくなるうえは……………」「お待ち下され。スパイダー殿。我輩めにご命令を」「オオ。お前は夜叉の鴉」「お任せ下され。既に先手は打っております。ソーサラーの毒性を忍ばせました」「そうか。宜しい」「それと気になる情報がございます。かの、シルバーオックスが奴等に加勢いたしました。手土産変わりにお受け取り下され」「ナニ？シルバーオックスが？すると学園とシルバーオックスが共同作戦を決行したと？」「詳しい話しはわかりませぬ。まずは第1報を」「フン。鴉よ。どんな形でも構わぬ。奴等を捕らえよ。これより学園担当は鴉。お前に任命する」「ハハッ。ありがたき幸せにございます。スパイダー殿。必ずや貴方の御前に揃えましようぞ」夜叉の鴉は霧の中に消えた。

烈火のシャクヤ。シルバーオックス、鋼のトウゴウ、水虎のキヨウカ。知っているか？カラスは一度捉えた獲物は離さない事を。獲物

のいきがいいほど、カラスは輝けるのだ。精々楽しむんだな。じゃなきや我輩も狙う意味が無くなる。

「フン。シルバーオックスか。面白い。実に滑稽だ。我が息子たちの成長は」

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4167z/>

メタルハート

2011年12月16日00時54分発行